



from LONDON



クリスマスパーティーを中止したバッキンガム宮殿

財政再建を進める英国

英国では、キャメロン政権が大規模な財政再建に取り組んでいる。金融危機対応で大きく膨らんだ財政赤字を2015年までにほぼ解消させるという意欲的な計画である。

財政再建の具体策としては、わが国の消費税に当たる付加価値税を今年1月から2.5%引き上げて20%としたほか、歳出面では、行政のさらなる効率化、社会福祉や教育関連等の削減を打ち出した。大学の授業料引き上げについては、反対する学生らが、昨年末にロンドン中心部で大規模なデモを実行。暴徒化した

学生の一部が警官隊と衝突する事態もみられた。

財政再建の影響は英国王室にも及んでいる。英国王室では、王室職員の慰労を目的としたバッキンガム宮殿でのクリスマスパーティーを開催してきた。しかし、昨年末は英国内の厳しい財政状況に配慮して異例の中止を決定した。また、今年4月29日にはウィリアム王子とキャサリン（愛称ケイト）・ミドルトンさんの結婚式が、観光スポットとしておなじみのウェストミンスター寺院で執り行われることが予定されている。英国内の祝賀ムードは日増しに高まりをみせているが、挙式費用については原則、王室とミドルトン家が負担し、国民負担は警備関連費用のみとすることが公表されている。チャールズ皇太子と故ダイアナ妃が30年前にセントポール寺院で執り行った豪華^{けんらん}絢爛なロイヤル・ウエディングとの比較等が茶の間を賑^{にぎ}わせている。

英国政府が進める財政再建は徐々に多方面に影響を及ぼし始めている。それでも「すべては将来世代のために」を合言葉に、これまでのところ財政再建を優先する姿勢に揺らぎはみられていない。多くの痛みを伴いながらも着実に歩みを進めている英国の財政再建の今後の帰趨^{きすう}が注目されるところである。

(日本銀行ロンドン事務所)



意欲的な財政再建策を断行する英国財務省